

逗子市議会 議会報告会の概要

【開催日時】

令和元年11月15日（金） 午前10時30分から正午

【開催場所】

体験学習施設 スマイル

【出席者】

市民 19名 議員 17名



司会進行 橋爪 議員（議会報告会準備会会長）

（1）開会あいさつ 高野 議長

（2）逗子市の子育て施策の報告

・未就学児について

報告者 中西議員 高谷副議長

●問 この中で生活保護を受けている家庭はどのくらいいるのか。

●答 調べて報告します。

【生活保護世帯で6歳未満の子供がいる世帯は3世帯】

●問 子供を遊ばせる機会の提供ということで大きな児童館があればという提案がでていますが、これは人的なインフラなのか、箱物を作った方がいいということか。

●答 現状にある箱物の中にもう少し民間のノウハウを活用したサポートができるような人的配置があれば、子供たちの雨の日とかの遊び場になるのではないかという声もいただいている。

●問 男性の育児休業の取得率は6%ぐらいだが、逗子市民の状況は。

●答 子育てアンケートをしており、その中には一定反映されている。そのアンケートがまだまとまっていない。まもなくそのアンケート結果が集約されるのでお待ち願いたい。

抽出対象者：逗子市にお住まいで、0歳児から6歳児までの未就学児を子育てしている保護者

抽出数：2,104件

回収状況 配布数：2,104票 回収数：1,143票 回収率：54.3%

◎父親の育児休業取得状況

項目名	集計値	構成比 (%)
全体	1,143	100.0
働いていなかった	12	1.0
取得した(取得中)	68	5.9
取得していない	989	86.5
無回答	74	6.5

【「逗子市子ども・子育て支援事業計画の改定」に伴うアンケート調査(未就学児調査)から】

●問 男性の育児休業の取得率は増えているが、男性に育児休業を取りましようという呼びかけは市ではされていないのか

●答 行政において、特に働きかけというのは行っていない。

●問 逗子市としての障がい児保育の受入れへのサポート体制が現在どのようになっているのか。保育士が不足している中、加配の先生をつけるにしても逗子市の助成では保育士の給料を賄えるだけの助成がでないといわれた。隣の横浜市では10年くらい前から加配の保育士をつけるためのサポートをしている。また、ケースワーカーがいて相談を市とできる。今後病気の子どもが地域で生まれてくる可能性もあると思うので、そういう人たちは逗子市から転居せざるを得ないのかなと感じている。

今、現状としては加配の保育士をつけるための金額が1人分の給料をカバーできないのが問題点としてある。そして保育士が不足している外的な問題もある。逗子市は財政が厳しいという面もあるかもしれないが、助成があと数万円で保育士1人を賄えるのであれば対応してほしいと思っている。

●答 どのような子であれ受け入れる仕組みを作っていかなければいけないし、加配の助成に対しても財政難ということはご理解いただいていると思うが、ない中で解決方法を探っていきたいと思うので、今頂いたご意見は議会としてしっかり受け止めて、行政に訴えかけていければと思う。

・小中学生について

報告者 匂坂議員 田中議員

●問 Wi-Fi の設置が今年度の初めは池子小学校になく、iPad に入っているアプリしか使えない状況があった市内小中学校の Wi-Fi 導入の現状と不登校生徒児童に対しての学校以外の学びの場の財政措置に関して進捗があれば聞きたい。

●答 小中学校の Wi-Fi の状況は全部把握していないが、全校整っている状況ではないと思う。数年前に Wi-Fi を各校に設置しようと思い、国の補助があったが、その当時の逗子市の財政状況が良かったため補助金がつかえなかった。その後、財政難になり Wi-Fi 環境の整備が遅れている。教育現場においても ICT の充実が叫ばれており、ICT 教育は重要だと思うので、行政に対応をとるように求めている。

また、不登校児童生徒についてだが現在、全国的にフリースクールが増えていて逗子市でも不登校の受け皿として民間の団体が活躍されていることは承知をしている。ただ、逗子市の行政の方では教育制度の中では「なぎさ」を運営しているが、そこがすべてで、そこに通えない子供がいるのも把握している。今後、行政が民間の方々の支援ができないかも含めて検討していきたい。

●要望 市内で学習支援・不登校支援をおこなっているが、今年から全面無料化したところ、子供が増えた。やはり無料でなければこれない子供がいるのだなと思っているので、早目に支援の動きをしてほしい。

・青少年について

報告者 田幡議員 丸山議員

●問 パートナーシップ制度は来年度から導入になるのか。導入されるのであれば逗子アリーナや体験学習施設などの更衣室・トイレなどの性的少数者に対するインフラ整備を進めるべきと考えるが。

●答 パートナーシップ制度については市から来年度から実施するとの回答があった。確かにインフラの整備も大切だと思うので議会として検討し要望していきたい。

(3) 意見交換（子育てについて）

※当日、参加者から寄せられた意見をそのまま掲載しています。

・久木小学校区・小坪小学校区グループ

《参加議員 加藤議員・眞下議員・八木野議員・高谷副議長》

- ①活動サークルは地域活動センターで行っているが、施設使用料が大きな負担になっている。減免も含めて行政のサポートが欲しい。
- ②担任が諸事情で休職し、新任先生がクラスをまとめるのが大変そう。先生をフォローする体制ができていない。対応を願いたい。
- ③星山先生の子育て講座が行われているが、受講した人の人材・能力を生かす場がない。知識の土台を築いたのち、現場で動ける環境整備をしてほしい。
- ④障がいを持つ親の集う場所があれば保護者の心の負担は軽減される。
- ⑤教育現場に男の先生が少ない。男性教師と女性教師のクラスの雰囲気が違う。教員の男女割合を均等にしてほしい。
- ⑥教育現場ではない『しつけ』『地域が育てる』の充実が必要。
- ⑦逗子の保育園では障がいを持つ子の受け入れ態勢がない。横浜などでは加配や必要機材がすぐ整う。逗子ではお金がないので加配できず、備品の購入も困難とやんわり断られた。逗子で子育てしたいので、障がい児でも受け入れ環境を整備してほしい。

・沼間小学校区グループ

《参加議員 匂坂議員・田幡議員・田中議員・飯山議員》

- ①野外保育の幼稚園が幼保無償化の対象外になった。心を育てるいい保育をしているのに残念だ。鳥取県や長野県では、県で独自の制度で補助している。
 - ②フリースクールにお手伝いに行っているが学校の一律的な学びに合わない子供もいるし、子供からニーズが出てきたら自ら勉強できる。助成して多様な教育を進めて欲しい。
 - ③学校の様子は先生によって違う。
 - ④3年生になった途端に成績がさがった。誉めて育ててきたが子供自身も自信をなくしてしまった。
 - ⑤自閉症で高校に通えず通信教育を受けている。
 - ⑥アーデンの花の森公園でリスが繁殖している。病原菌を持っているので子どもたちのために伐採してほしい。
- スマイルについて

- ①大人視点で作られていると感じる。カフェ前の滑り台は危ない。更に両脇に作った階段は段差もバラバラの上にコンクリートで作っている。子供を遊ばせる時は付きっきりで、一人で行こうとする時は「危ないからやめなさい」と言っている。
- ②砂場に日陰が欲しい。夏場は暑くてたまらない。
- ③多目的室の利用が「大人は入ってはいけない」ルールではなく、大人も入れるようにして欲しい。一緒に遊びたい。楽器の使用の部屋も同じ。
- ④スマイルスクールは、参加したくても部活が、終わってから参加となると時間が早過ぎる。参加者が少ない。
- ⑤不登校の子供の居場所としても活用できるのではないか。公の施設の中で大人と交流するようになると、地域の目も変わってゆく。

・池子小学校区・逗子小学校区グループ

《参加議員 松本議員・佐藤議員・中西議員》

- ①自分の子供が昨年夏、原因不明のじんましん。結果、卵アナフィラキシーであると判明。私立幼稚園では私学なので、そのようなアレルギーを持っている子は扱えないといわれ入園拒否された。アレルギー児に対して行政を通して対応してほしい。
- ②森の幼稚園へ子供が通っている。森の中で素晴らしい体験をさせる幼稚園であるが、今年10月からの幼稚園無償化の対象外になってしまった。そのせいで、断念して移ってしまう子もいる。このような形態の幼稚園は長野県、鳥取県は無償化である。気に入っているのでやめたくない。
- ③池子の放課後児童クラブは財政難で職員が半分になっている。今、児童が50名いるが、障がいがある子にマンツーマン指導なので、他の子供たちが手薄になっており、支障がでている。これでは遊びだけを見てもらうふれあいスクールと現状は同じで、きめ細かい対応ができない。
父兄が働いている日、夏休みなどスタッフ4～5名の内1名は事務をする。夜の時間帯の7時までは安心・安全で見守ってあげられるし、見てあげたい。
- ④学童に在籍していた4、5、6年生。高学年だと学童に在籍している児童も待機児童扱いになってしまう。1年生から見ている子であるので高学年になっても見てあげたい。

(5) 閉会あいさつ 高谷 副議長